

第2章 平成29年中における自殺の概要

1 総数(表1関係)

平成29年中における自殺者の総数は21,321人で、前年に比べ576人(2.6%)減少した。
性別では、男性が14,826人で全体の69.5%を占めた。

2 年齢階級別自殺者数(表2関係)

「40歳代」が3,668人で全体の17.2%を占め、次いで「50歳代」(3,593人、16.9%)、「60歳代」(3,339人、15.7%)、「70歳代」(2,926人、13.7%)の順となっており、この順位は前年と同じである。

3 職業別自殺者数(表3関係)

「無職者」が12,280人で全体の57.6%を占めて最も多く、次いで「被雇用者・勤め人」(6,432人、30.2%)、「自営業・家族従業者」(1,445人、6.8%)、「学生・生徒等」(817人、3.8%)の順となっており、この順位は前年と同じである。

4 原因・動機別自殺者数(表4関係)

原因・動機が明らかなもののうち、個々の要因別にみると、その原因・動機が「健康問題」にあるものが10,778人で最も多く、次いで「経済・生活問題」(3,464人)、「家庭問題」(3,179人)、「勤務問題」(1,991人)の順となっており、この順位は前年と同じである。

注)自殺の多くは多様かつ複合的な原因及び背景を有しており、様々な要因が連鎖する中で起きている。

注)平成19年に自殺統計原票を改正し、遺書等の自殺を裏付ける資料により明らかに推定できる原因・動機を3つまで計上することとしたため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数(15,930人)とは一致しない。